



原一中だより



学校ホームページ

第 1 号

発行日：平成30年4月13日（金）

【教育目標】

- ・ 自ら考え正しく判断できる生徒
- ・ 心豊かで最後までやり抜く生徒
- ・ 健康で活力のある生徒

発行者 校長 梅田善幸

平成30年度 入学式 新たな始まり！



入学式全体の様子



新入生呼名

4月6日の午後、新入生124名（男子69名、女子55名）を迎え、入学式がしめやかに行われました。新入生呼名では、全員が大きな声ではっきりした返事ができました。校長式辞の後、大和田博行教育長からあいさつをいただき、来賓としては遠藤雄二PTA会長の祝辞がありました。また、生徒会長の田中暖々さんの歓迎の言葉があり、新入生代表の近藤暖太君から新入生代表誓いの言葉が述べられました。

以下に、校長式辞の抜粋を記載いたします。

（入学式式辞抜粋）

皆さんは、今、中学校への期待と不安でいっぱいではないでしょうか。中学生になったら、あれもしよう、これもしようと思心の中をたくさんの期待が駆け巡っていることと思います。同時に、ちゃんとやっていけるのだろうか、先生や先輩はどうだろうかという不安もあるかと思ひます。

では、期待のほうはどうでしょうか。皆さんの期待に、中学校はこたえてくれるか。期待通りだったとか期待外れだったとかいいますが、期待とはいったいなんのでしょうか。期待の期（き）の字には、「あてにする」という意味があります。期待の待（まち）の字は待つです。つまり、期待とは「あてにして待つ」という意味です。期待外れだったという人は、あてにして待っていたのに、中学校に入ったらあてが外れたということでしょうか。しかし、考え方次第です。例えば、期待して入った部活が弱かったとします。そのとき、がっかりするか、それとも、自分ががんばって強くするぞと思うか。

新入生の皆さん、中学校が自分に何かしてくれるということを期待しているだけではダメです。自分がこの学校で何ができるか、この学校のために何ができるかを考えることによって、皆さんの生き方が広がるのではないのでしょうか。

昔から多くの人々が年月の過ぎることの速さの感想を述べ、若い時代の一日一日が貴重であることを訴えています。中国の有名な詩に「少年老いやすく学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」というものがあります。一少年はすぐ大人になり、年をとってしまうが、学問の道は奥が深く、たどりつくのが難しい。たとえ短い時間であっても、軽く見ていかげんに過ごしてはいけな一という意味です。人生の先輩が、生きること、成長することについて残した言葉を、皆さんの心にとめておいてほしいと思ひます。

保護者の皆さん、これからの教育は生きる力を身につけることが重要だといわれます。これから世界がどう変わっていくかわかりませんが、たくましく生きていく力が必要です。そのために、子どもたちが自信を持って、積極的に生きていく経験を多くさせることが大切です。

子どもの個性を認め、良い方向へ伸ばしていくこと、勉強の成績だけでなく、人間としての面から子どもを見つめること、型にはめるのではなく、個性に応じた生き方を考えさせることなどが重要です。

ただ、中学生はまだまだ子どもの面が多くあります。保護者の方の協力が必要不可欠です。生きる力を身につけさせるためには多くの試行錯誤が必要であり、保護者の皆さんには、お子様を温かく見守り、時に支え、厳しい声をかけながらも包んでいただいてこそ、立派な人間に育つのではないかと思います。

今日から、私どもが、責任を持って、お子様をお預かりいたします。これから、複数の目でお子様を見つめることによって、一人一人の可能性を見だし、伸ばす努力をいたします。学校と家庭が一緒になって、お子様の成長のために努力していくことが大切だと思います。

生徒一人一人を大切に、学校で存在感が持てるように、教職員が一丸となって支援してまいります。どうぞ、本校の教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

なお、本校の平成30年度教職員については、裏面に掲載してあります。



新入生退場



新入生歓迎・教室の様子